

病害虫発生予察情報(9月予報)

令和3年8月26日
静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均平年値)	予報の根拠
稲	いもち病 (穂いもち)	発生量：やや多 (発病株率 0.4%)	8月中旬の葉いもち発生量：多 (+) 8月中旬の穂いもち発生量：少 (発生なし) (-) 気象予報：気温：並か高い (±) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	紋枯病	発生量：並 (発病株率 11.9%)	8月中旬発生量：少 (-) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	トビイロウンカ	発生量：並 (寄生数 0.7頭/株)	8月中旬発生量：少 (発生なし) (-) 8月の成虫誘殺数：多 (+) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	斑点米カメムシ類	発生量 東部・志太：やや多 中遠西部：少	8月中旬発生量： 東部・志太の一部：多 (+) 中遠早期・中遠西部：少 (-) 8月の成虫誘殺数：並～少 (±～-) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
だいず	べと病	発生量：並 (発病株率 19.0%)	8月中旬発生量：少 (発生なし) (-) 気象予報：気温：並か高い (±) 降水量：ほぼ平年並 (+)
	ハスモンヨトウ	発生量：多 (寄生株率 9.2%)	8月中旬発生量：多 (+) 8月の成虫誘殺数：多 (+) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
温州みかん	黒点病	発生量：やや多 (発病度 0.6)	8月上中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	ミカンハダニ	発生量：やや少 (寄生葉率 2.8%)	8月上中旬発生量：少 (-) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量：並 (寄生果率 0.1%)	8月上中旬発生量：やや少 (-) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)
中晩柑類	かいよう病	発生量：並 (発病度(果) 0.5)	8月上中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：並か高い (±) 降水量：ほぼ平年並 (±)
かき	ハマキムシ類	発生量：少	8月中旬発生量：少 (-) 気象予報：気温：並か高い (+) 降水量：ほぼ平年並 (±)

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均平年値)	予報の根拠
果樹全般	カメムシ類	飛来数：少	8月1～3半旬誘殺数：少 (－) スギ・ヒノキ寄生数：少 (－) ヒノキ毬果吸汁痕数：少 (－) スギ・ヒノキ毬果量：やや少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
茶	炭疽病	発生量：並 (病葉数 24.3 葉/1.25m ²)	8月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：並か高い (±) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量：やや少 (叩き落とし虫数 4.5 頭/4 力所)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量：やや少 (叩き落とし虫数 0.8 頭/4 力所)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	チャノホソガ	発生量：並 (巻葉数 1.4 葉/1.25 m ²)	8月中旬発生量：少 (－) 8月の成虫誘殺数：並～多 (＋) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	ヨモギエダシャク	発生量：やや少 (叩き落とし虫数 0.08 頭/4 力所)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	カンザワハダニ	発生量：並 (寄生葉率 2.7%)	8月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：並か高い (±) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	クワシロ カイガラムシ	発生量：やや多 (寄生株率 1.9%) 発生時期：早い	8月中旬発生量：やや多 (＋) 気象予報：気温：並か高い (±) 降水量：ほぼ平年並 (±)
ねぎ (白ねぎ)	疫病	発生量：やや少 (発病株率1.1%)	8月中旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	黒斑病・葉枯病	発生量：やや少 (発病株率4.6%)	8月中旬発生量：少(0.04%) (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	シロイチモジヨトウ	発生量：やや少 (寄生株率2.4%)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	ネギハモグリバエ	発生量：やや少 (寄生株率 47.0%)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	ネギアザミウマ	発生量：やや少 (寄生株率 26.4%)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均平年値)	予報の根拠
いちご	炭疽病	発生量：多 (10月発病株率 1.6%)	8月上中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：並か高い (±～＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	うどんこ病	発生量：少 (10月発病株率 1.5%)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (±～－) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	ハダニ類	発生量：やや少 (10月寄生株率 11.6%)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
	ハスモンヨトウ	発生量：多 (10月寄生株率 0.6%)	8月上中旬発生量：並 (±) 8月フェロモントラップ捕獲数：多 (＋) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)
作物全般	オオタバコガ	発生量：並	フェロモン誘殺数：並 (±) 気象予報：気温：並か高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年(静岡県のごく過去 10 年間)との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、平年(静岡県のごく過去 10 年間)との比較で、「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況(調査時期と発生量)、気象庁の1か月予報(気温と降水量)を記入しています。その状況が多発要因の場合は(＋)、少発要因の場合は(－)を示し、＋－を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

農薬情報
はこちら
で検索！



静岡県農薬安全使用指針
・ 農作物病害虫防除基準

<http://www.s-boujo.jp/>

2 予報の根拠と防除対策

【稲】

＜生育の概況等＞

巡回時の生育調査（下表、調査期間：8月11日～20日）では、草丈、稈長、穂長、茎数および葉色は概ね平年並であるが、中遠・西部（普通期）の草丈及び中遠（早期）の稈長は平年より低かった。病虫害防除員からのアンケート調査によれば、生育は平年よりやや早い～やや遅く、地域によってばらつきがある。

	田方 平坦地	東部 高冷地	志太榛原	中遠・西部 (普通期)	中遠 (早期)
草丈 (cm)	83.6 (90.1)	— —	89.6 (87.6)	75.5 (87)	69.5 —
稈長 (cm)	77.6 (78.6)	74.1 (80.8)	70.5 (73.6)	71.3 (79.7)	72 (83.6)
穂長 (cm)	18.5 (17.6)	18.7 (18.8)	19 (18.1)	19 (18.8)	20.2 (19.2)
茎数 (本)	23.2 (22.8)	20.8 (19.7)	20.4 (20.9)	22.8 (22.2)	19.7 (22.2)
葉色 (指数1-7)	4.5 (4.1)	4.3 (3.9)	4.5 (4.1)	4.5 (4.1)	3.3 (3.4)

()内は平年値

※穂揃期前のは場は草丈、穂揃期以降のは場については稈長・穂長を計測した。

●いもち病（穂いもち）

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、県全体の葉いもちの平均発病株率は5.9%（平年1.8%）と平年より多く、特に一部のは場で多発していた。
- ・8月中旬の巡回調査では、穂いもちの発生は確認されなかった（平年発病株率0.5%）。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高いが、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生をやや助長する（感染好適条件：気温15～25℃、葉面湿潤時間10時間以上、前5日間の平均気温が20～25℃を全て満たす時）。

防除対策

- ・育苗箱処理剤の残効は出穂期頃までなので、効果の切れた時期以降で、本病の発生に適した雲雨天で日照不足が続く場合は注意が必要である。
- ・急性型病斑（病斑周辺部に褐色部分が少なく、病斑が暗緑色あるいはねずみ色）が多いときには、速やかに薬剤散布をする。
- ・現在、上位葉に発生している葉いもちは、穂いもちの発生を助長する。そのため、葉いもちが多発しているほ場では、穂いもちの防除を適期（穂ばらみ期～穂揃期）に2回行う。
- ・さらに多発が予想される場合は傾穂期に追加防除を行う。
- ・常発地では適期に薬剤の予防散布を行う。

- ・本県では MBI-D 剤（「ウィン」、「デラウス」または「アチーブ」を含む剤）耐性いもち病菌が発生している。また、近年、他県では QoI 剤（「アミスター」または「嵐」を含む剤）耐性いもち病菌が発生し問題となっており、本県でも発生が懸念されるため、耐性菌の発生リスクが高い薬剤を使用する場合は、連用を避けるなど適切に使用する。詳細は日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会ホームページの「殺菌剤使用ガイドライン」（<http://www.taiseikin.jp/guidelines/>）を参照。

●紋枯病

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均発病株率は3.7%（平年7.3%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生を助長する（本病は生育適温28～32℃と高温を好む）。

防除対策

- ・水田等で越冬した菌核が一次伝染源となるため、前年発生がみられたほ場では発生しやすい。そのようなほ場では発生に注意し、発生が見られた場合は速やかに薬剤防除を行う。
- ・病斑が上位葉鞘まで上がると減収の要因になる。特に過繁茂となっているほ場では多発しやすいため、そのようなほ場では今後の発生に注意する。

●トビイロウンカ

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、トビイロウンカの寄生は確認されなかった（平年平均寄生数0.06頭/株）。
- ・8月第4半旬時点の県内4ヶ所の予察灯では、トビイロウンカの誘殺数は平年より多く推移している。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並であるため、トビイロウンカの増殖をやや助長する。

防除対策

- ・9月の気温が高い場合には急増することがあるので注意する。葉色に注意し、水田内で坪状に葉が黄化している場合は株元を観察し、成幼虫の寄生が確認された場合は直ちに薬剤防除を行う。

●斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ等）

予報の根拠

- ・8月中旬の水田におけるすくい取り調査では、38%の水田（平年31%）からアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等が捕獲され、平均捕獲数は2.1頭/30回振り（平年1.2頭）と平年より多かった。地域別にみると、東部及び志太榛原の一部で平年より多く、中遠早期及び中遠西部では平年より少なかった。
- ・8月第4半旬時点の県内4ヶ所の予察灯では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ及びミナミアオカメムシの誘殺数は平年並～少なく推移している。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並であるため、斑点米カメムシ類の増殖をやや助長する。

防除対策

- ・ 出穂後は水田内のカメムシ類の発生に注意し、確認された場合は薬剤防除を実施する。穂揃期とその7～10日後の2回薬剤散布を行うと効果が高い。
- ・ 農林水産省の蜜蜂被害事例調査により、「蜜蜂被害は、水稻のカメムシを防除する時期に多く、水稻のカメムシ防除に使用した殺虫剤（農薬）を直接浴びたことが原因である可能性が高い」ことが報告されたため、養蜂家との情報交換を図る等、蜜蜂への影響に留意し防除を行う。なお、詳細は農林水産省ホームページ (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee_survey.html) を参照すること。

<その他の病害虫>

●セジロウンカ

- ・ 8月中旬の巡回調査では、本種の平均寄生数は4.5頭/株（平年1.9頭/株）と平年より多かった。
- ・ 多発しているほ場では、斑点米カメムシ類の防除と併せて防除を実施する。

【だいでず】

<生育の概況等>

生育は平年並である。

●べと病

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発病株率3.2%）。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高いが、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生を助長する（本病は15～20℃程度の比較的冷涼で雨の多いときに発生する）。

防除対策

- ・ 多発ほ場では薬剤防除を行う。

●ハスモンヨトウ

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は4.2%（平年寄生株率2.9%）と平年より多かった。
- ・ フェロモントラップによる誘殺数は、平年より多く推移している。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、ハスモンヨトウの増殖をやや助長する。

防除対策

- ・ 食害（特に白化した葉）に注意してほ場を観察し、若齢幼虫を見つけ次第、薬剤防除を行う。

<その他の病害虫>

●葉焼病

- ・ 昨年10月中旬の巡回調査では、本病が多発したほ場がいくつか確認された。本病は被害茎葉で越冬した病原細菌が風雨により傷口や気孔から侵入するため、昨年多発したほ場では発生に注意する。
- ・ 開花期に発病が認められた場合は薬剤防除を実施する。

●カメムシ類

- ・ 8月中旬の巡回調査では、カメムシ類の発生は認められなかった（平年寄生株率0.5%）。
- ・ ダイズには主にホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシが発生するが、近年、ミナミアオカメムシが増加傾向にある。ミナミアオカメムシの成虫は黄緑色で体長12-16mm、幼虫は黒褐色または黄緑色の体色に白や赤色の斑点を有する。ほ場内を観察し、寄生を確認した場合は薬剤防除を実施する。

【温州みかん】

＜生育の概況等＞

生育は平年に比べて5～7日程度早い産地が多く、果実の肥大は平年並～やや大きい。

●黒点病

予報の根拠

- ・ 8月上中旬の巡回調査では、平均発病度は0.52（平年0.45）と平年並であった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 防除実施以降の累積降雨量が250mm～300mmに達した時点、または防除実施日から25～30日経過が次の防除実施の目安となる。アメダスの気象データなどから栽培地域での累積降雨量を確認し防除を実施すること。
- ・ 9月以降の後期感染を防止するため、台風などの前に防除を実施する。ただし、早生品種の防除は収穫前日数に注意して行う。

●ミカンハダニ

予報の根拠

- ・ 8月上中旬の巡回調査では平均寄生葉率は2.4%（平年7.2%）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 着色期以降に発生すると果実が着色不良となり商品価値が低下するため、発生がみられた場合は薬剤防除を行う。

●チャノキイロアザミウマ

予報の根拠

- ・ 8月上中旬の巡回調査では、本虫の平均寄生果率は0.07%（平年0.12%）と平年よりやや少なかった。果梗部被害度は0.11（平年1.6）、果頂部被害度は0.06（平年0.15）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ アメダスの気象データを用いて有効積算温度を計算したところ、第7世代成虫の発生ピークは9月上旬から10月上旬と予想される（発生ピーク時期は地域によって異なるため、各地域における成虫発生時期の予想については静岡県病害虫防除所ホームページを参照）。
- ・ 薬剤防除適期は各世代の発生ピーク7日前～当日である。各地域の発生ピークを参考に防除を行う。
- ・ 普通温州園では寄生果率10%を目安に防除を行う。

【中晩柑】

●かいよう病

予報の根拠

- ・ 8月上中旬の巡回調査では、果実の平均発病度は0.33（平年0.41）と平年並であった。葉の発病度は0.27（平年0.57）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・ 傷口より感染するため台風など強風雨は感染を著しく助長し、発生量が少ない圃場でも急激に多発する恐れがある。また、感染した組織内の病原菌に対して薬剤の効果がほぼないことから、気象情報とほ場の発生状況に注意し、感染拡大を防ぐよう降雨前の予防散布に重点を置く。
- ・ ミカンハモグリガの加害による傷は、感染を著しく助長するためミカンハモグリガの防除を行う。
- ・ 夏秋枝は罹病しやすく伝染源となるので、本病が多発している圃場では夏秋枝を切除する。

【かき】

<生育の概況等>

生育は平年並であるが、7日程度早い産地もある。

●ハマキムシ類

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では平均被害葉率は0.2%（平年1.2%）と平年より少なかった。
- ・ 西部地域のナシ園におけるフェロモントラップ調査でのハマキムシ類の誘殺数は、7月以降平年より少なく推移している。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 地域の予察灯やフェロモントラップの調査を参考にし、適期防除（成虫発生盛期の10～14日後）に努める（誘殺データは静岡県病虫害防除所ホームページを参照）。

<その他の病害虫>

●フジヨナカイガラムシ

- ・ 8月中旬の巡回調査では平均寄生果率は0.3%（平年1.8%）と平年より少なかった。
- ・ 本種は果実とヘタの間の薬剤が届きにくい所に寄生しているので、薬剤散布を丁寧に行う（フジヨナカイガラムシ発生時期の予測は静岡県病虫害防除所ホームページを参照）。

【果樹全般】

●カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

予報の根拠

- ・7月中旬のヒノキ、スギの着果量指数は3.4（平年4.5）と平年よりやや少なかった。
- ・県内6カ所に設置しているフェロモントラップにおける8月第1～3半旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが23.5頭/箇所（平年137.1頭/箇所）、ツヤアオカメムシが2.0頭/箇所（平年6.5頭/箇所）、クサギカメムシが0.8頭/箇所（平年1.2頭/箇所）と平年より少なかった。
- ・県内3カ所の予察灯における8月第1～4半旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが281.3頭/箇所（平年272.4頭/箇所）と平年並で、ツヤアオカメムシが58.0頭/箇所（平年100.6頭/箇所）、クサギカメムシが40.7頭/箇所（平年85.9頭/箇所）と平年より少なかった。
- ・繁殖場所であるヒノキ、スギにおける8月上中旬のカメムシ類の平均寄生数は1.4頭/10結果枝（平年3.0頭/10結果枝）と平年より少なかった。
- ・8月上中旬におけるヒノキ毬果のカメムシ吸汁痕数は4.8（平年9.3）と平年より少なかった。カメムシ類の好適な餌であるヒノキ毬果において、毬果1個あたりの吸汁痕数が20を超えると、カメムシ類がヒノキ、スギから離脱し餌を求めて果樹園へ飛来する。
- ・以上の結果、予察灯でのチャバネアオカメムシ成虫誘殺数は平年並であるが、フェロモントラップでの成虫誘殺数が平年より少ないこと、ヒノキ・スギにおけるカメムシ類の寄生数やヒノキ毬果での吸汁痕数が平年より少ないことから、9月の果樹園への成虫飛来数は少ないと予測される。

防除対策

- ・フェロモントラップ及び予察灯による誘殺数は、静岡県病害虫防除所ホームページを参照する。
- ・ヒノキ、スギ林付近の果樹園では多発しやすいため、ほ場での発生状況をよく観察し、発生が見られたら防除を行う。

【茶】

<生育の概況等>

秋芽の生育は萌芽前～四葉開葉期と、地域や茶園の管理によりばらつきがある。

●炭疽病

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、新芽での平均発病葉数は17.7葉/1.25㎡（平年19.2葉/1.25㎡）と平年並であった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高いが、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・本病の感染には、新芽生育期に降雨による胞子の飛散と10時間以上の葉の濡れが必要であり、本病の潜伏期間はおよそ20日と長い。秋芽生育初期に半日以上続く降雨があった場合には、早め（萌芽期～2葉期）に防除を行う。特に8月中旬以降の感染に好適な降雨が続いたことから、この時期に秋芽の生育を迎えた茶園では、既に感染が生じている可能性が高いため、秋冬番茶を摘採する茶園で伝染源が多い場合は、速やかに感染後の有効期間が長い浸透性殺菌剤を散布する。一方、生育中期以降に降雨があった場合は、たとえ感染しても秋冬番茶の摘採や、秋の整枝作業で、新芽の上部は症状が出る前に刈られるので、防除の必要はない。

●チャノキイロアザミウマ

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は2.5頭/4カ所（平年15.2頭/4カ所）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・9月に秋冬番茶を摘採する茶園では、発生状況を確認し、秋芽の萌芽期～開葉初期に防除を行う。

●チャノミドリヒメヨコバイ

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.5頭/4カ所（平年1.2頭/4カ所）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・9月に秋冬番茶を摘採する茶園では、発生状況を確認し、秋芽の萌芽期～開葉初期に防除を行う。

●チャノホソガ

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均巻葉数は0.6葉/1.25㎡（平年1.5葉/1.25㎡）と平年より少なかった。
- ・フェロモントラップによる誘殺数は、平年並～多く推移している。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・新芽生育期と成虫発生期が合致すると発生が多くなる。
- ・地域の予察灯やフェロモントラップにおける誘殺虫数の推移や新芽への産卵状況に注意し、秋冬番茶を摘採する茶園では適期防除に努める。なお成虫の誘殺数データは静岡県病虫害防除所ホームページで提供している。

●ヨモギエダシャク

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.04頭/4カ所（平年0.09頭/4カ所）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 平年は9月に幼虫の発生が見られるが、本年はすでに幼虫が認められる。茶園内で局所的に発生するので茶園をよく観察し、薬剤感受性の高い若齢幼虫の時期に防除を行う。

●カンザワハダニ

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、茶株面の平均寄生葉率は2.2%（平年2.1%）と平年並であった。地域別では、牧之原地域の平均寄生株率が6.0%（平年3.0%）、川根地域が1.9%（平年0.5%）と高かった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、天敵のカブリダニ類の増殖に適していることから、本種の発生は特には助長されない。

防除対策

- ・ 9月に秋冬番茶を摘採する茶園では、天敵への影響が少ない薬剤を選択し、直ちに防除を行う。
- ・ 降雨が少ない場合は急激に増殖する恐れがある。茶園の発生に注意し、早期に防除を実施する。

●クワシロカイガラムシ

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は9.8%（平年7.6%）と平年よりやや高かった。
- ・ アメダスの気温データに基づく茶業研究センター（菊川市）の第3世代予想ふ化最盛日は、8月26日の計算によると平年より6日早い9月9日と予想される。

防除対策

- ・ 地域のふ化最盛予想時期に、茶園内のふ化状況をよく観察し、適期防除を行う。アメダス地点の予想ふ化最盛日については静岡県病虫害防除所ホームページで提供している。なお、7月に防除した茶園では、系統の異なる薬剤を使用して防除する。

<その他の病虫害>

●褐色円星病

- ・ 本病は、春先になって落葉が始まってからの防除では効果がない。一番茶摘採期に発生の多かった茶園や二番茶残葉に緑斑症状が多数見られる茶園では、秋芽の生育期～硬化期に必ず1～2回防除する。

●赤焼病

- ・ つゆひかり等の感受性品種では、春先に発病して枯死した枝や茎葉内に病原細菌が残存して越冬している。この菌が秋以降、台風の日雨による傷などで増殖し、冬の発病につながるため、台風の通過前後に薬剤散布を実施し、菌密度を下げておく。

●チャトゲコナジラミ

- ・ 8月中旬の巡回調査では、茶株の裾部の平均寄生葉率は2.7%（平年23.4%）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。
- ・ 8月下旬現在、成虫が発生している。成虫の発生が多い茶園では、秋芽の害虫防除と同時に防除を行う。防除は幼虫の寄生が多い裾部の葉裏に薬剤が届くように散布する。防除前に裾刈を行うと薬剤が茶株内部まで届き、防除効果が高まる。なお、薬剤の使用時期（摘採前日数）に注意する。

●チャノホコリダニ

- ・ 8月中旬～9月にかけて乾燥が続くと、秋芽にチャノホコリダニが多発することがある。秋冬番茶を摘採する茶園では、発生に注意し、早めに防除する。

【ねぎ】

＜生育の概況等＞

生育は平年並で推移している。

●疫病

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、発生は認められなかった（平年発病株率 0.04%）。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生をやや助長する（病原菌生育適温 28～30℃）。

防除対策

- ・ 多湿な環境で発生が多いため、例年発生が認められるほ場では、溝を切るなどしてほ場排水を良くする。
- ・ 窒素肥料の多用は本病を助長するため、施用量に気をつける。

●黒斑病・葉枯病

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、平均発病株率 0.4%（平年 4.5%）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 肥料切れや草勢の衰えは発病を助長するので、適切に施肥を行う。
- ・ 風ずれやネギアザミウマの食害は本病の発生を助長するため、防風ネットの設置やアザミウマの防除につとめる。
- ・ 薬剤防除は、治療剤に頼りすぎないように注意し、予防散布または初期防除につとめる。

●シロイチモジヨトウ

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、平均寄生株率 0.2%（平年 1.8%）と平年よりも少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 例年 9月に発生が増加することから、ほ場をよく観察し、薬剤感受性が高い若齢幼虫のうちに防除する。
- ・ すでに発生が増加しているほ場では、早めに薬剤散布を行う。

●ネギハモグリバエ

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は 6.9%（平年 36.9%）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 近年、本虫の食害により葉が真っ白くなる被害が散見されている。多発すると生育が遅れるため、本種の発生に注意し早期に防除を行う。

●ネギアザミウマ

予報の根拠

- ・ 8月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は 21.6%（平年 33.3%）と平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・多発すると生育が遅れるため、発生が増加する前に防除を行う。すでに、発生が増加しているほ場では早めに防除を行う。
- ・本種はネギえそ条斑病の原因となるアイリス黄斑ウイルス（IYSV）を伝搬する。罹病株はタマネギやエンシャレット等、他のネギ類への伝染源となるため、見つけ次第ほ場の外に持ち出し、土中に埋める等の処分をする。

【いちご】

<生育の概況等>

苗の生育はほぼ平年並に推移している。

●炭疽病

予報の根拠

- ・8月の育苗ほ巡回調査では、平均発病株率は2.7%（平年1.4%）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生をやや助長する。

防除対策

- ・発病株から周囲へ伝染するため、ほ場の見回りを徹底し発病株や発病が疑われる株の早期発見に努める。特に本年は8月の長雨によって伝染しやすい環境が整ったと考えられるため、9月以降も発病株の増加に注意し、防除にあたる必要がある。
- ・発病株は培地も含めて抜き取り、ビニール袋に入れ圃場外へ出し、殺菌処理をしてから残渣を処分する。
- ・本病原菌は水滴の飛散によって伝染するため、株元灌水するなど水の跳ね返りを防ぐ。
- ・発病株や発病が疑われる株は、定植苗には使用しない。
- ・発病後の防除は困難であるため、定期的に予防散布を行う。特に激しい雨や台風の前、後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に防除を行う。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●うどんこ病

予報の根拠

- ・8月の育苗ほ巡回調査では、平均発病株率は0.1%（平年4.2%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・胞子の発芽適温は20℃前後であり高温期の発病は抑制される。9月以降、気温の低下とともに再び発生が増加するため注意する。
- ・特に6、7月に発生がみられたほ場では、育苗期から予防的に薬剤散布を行い、無病苗の定植に努める。

●ハダニ類

予報の根拠

- ・8月の育苗ほの巡回調査では、平均寄生株率は2.4%（平年8.7%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年並か高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・育苗期の防除を徹底し、ハダニ類を本ほへ持ち込まないよう注意する。

●ハスモンヨトウ

予報の根拠

- ・ 8月の育苗ほの巡回調査では、平均寄生株率は0.1%（平年0.1%）と平年並であった。
- ・ フェロモントラップ調査によると8月第1～4半旬の誘殺数は、県中部で平年より多く、県西部で平年並～多であった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並のため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 初期発生に注意し若齢のうちに防除を行う。施設の開口部に防虫網を設置し侵入を防ぐ。

<その他の病害虫>

●コガネムシ類

- ・ 磐田市富丘における予察灯調査によると、8月第1～4半旬の成虫誘殺数はドウガネブイブイが平年並で、アオドウガネは平年よりやや多かった。
- ・ 例年発生がみられる土耕ほ場では、定植前に薬剤を本ぼに土壌混和する。
- ・ 定植時には根への幼虫の寄生に注意し、本ぼへ幼虫を持ち込まないように注意する。

【作物全般】

●オオタバコガ

予報の根拠

- ・ 浜松市のキク産地2ヶ所（西区協和町及び伊佐地町）におけるフェロモントラップの誘殺数は、協和町で平年より多く、伊佐地町で平年より少なく推移している。磐田市のフェロモントラップでは、平年並で推移している。
- ・ 1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並であるため、本種の増殖をやや助長する。

防除対策

- ・ 芽における被害の発生に注意し、初期防除に努める。

3 季節予報

● 1か月予報（東海地方 令和3年8月19日 名古屋地方気象台発表）

【予報期間】 8月21日から9月20日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

【確率】

期間	要素	低・少	平年並	高・多%
1か月	気温	20	40	40
1か月	降水量	30	40	30
1か月	日照時間	40	30	30
1週目	気温	20	40	40
2週目	気温	20	40	40
3～4週目	気温	30	40	30

【予報の対象期間】

1か月	:	8月21日(土)～	9月20日(月)
1週目	:	8月21日(土)～	8月27日(金)
2週目	:	8月28日(土)～	9月3日(金)
3～4週目	:	9月4日(土)～	9月17日(金)

※ 利用上の注意

- ・気温・降水量は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります。(気候的出現率と呼びます)。
- ・晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

お問い合わせは

静岡県病害虫防除所 〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780 URL https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html
--